

心に残る文化財子ども塾 出雲市立斐川西中学校

1. 活動の概要

6月18日(木)、出雲市立斐川西中学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに出雲市文化課の職員から、斐川町内の弥生時代・古墳時代について話を聞きました。地図や写真を見ながら、古代の斐川町は宍道湖の一部だったことを教えてもらおうと、皆さん驚いた様子でした。町内にある遺跡や出土品の説明では、「知ってる」「見たことある」という生徒も多く、文化財をより身近に感じていました。

次に、埋蔵文化財調査センターの職員から、勾玉についての説明を受けました。玉の種類や作り方、どのように使われていたのかを、古墳から出土した人物埴輪を例にして学びました。

休憩をかねて、出土品の見学をしました。町内の杉沢遺跡から出土した土器や石器、また県内各地で出土した玉を観察したり、原石を手にとりて見たりすることができる貴重な機会となりました。

そして、雨天練習場へ移動し、いよいよ勾玉作り体験です。3グループに分かれて作り方の説明を受けた後、削る作業を開始しました。石は思ったよりも柔らかかったようですが、角をとって丸みをつける工程に苦戦する生徒もいて、「古代の人は大変だったんだなあ」と感心していました。仕上げまで一生懸命磨き、最後には全員がきれいな勾玉を作ることができました。その後、完成した勾玉に紐を通して首からさげ、古代衣装を着て写真撮影を行い、体験活動を終了しました。

2. 活動の様子

1) 斐川町の歴史・遺跡、勾玉について知る



!!!

むかし斐川町は水の底にありました



石の真ん中に水晶が
できているよ

きれい!

さわりたい!

2) 勾玉作り・古代衣装試着体験



むずかしいね…

もうちょっとかな?



きれいになってきた♪

3. 子ども塾を終えて

1) 生徒の皆さんから…

- ・斐川町は半分穴道湖だったことは知らなかった。
- ・斐川町にたくさん遺跡があってびっくりした。
- ・勾玉作りで最初は難しかったけど作品ができてよかった。
- ・古代衣装をきてみたら昔の人を思い出した。
- ・やじりをつくって魚をとりたい！

2) 担任の先生から…

- ・自分たちの身近な地域の歴史や遺跡の話だったのでとても興味深かった。
- ・勾玉のスライドは漢字が少しむずかしく、やさしい言葉にするかふりがながあると良いと思う。
- ・加工しやすい石材で形を作りやすく楽しくとりくめた。
- ・体験の時間をゆったりとることを考えると3時間扱いにしてもよかったかも知れない。

3) 埋文センターから

自分の住んでいる地域にたくさんの遺跡があることを知り、そこから出土した土器や石器に触れて学習することで、古代の人々の生活について理解を深めることができました。展示した玉類の観察時には、大きな原石から小さな透き通った勾玉が作られたことに驚き、発掘現場はどんな様子なのかなど、皆さん積極的に質問をしていて、歴史や文化財への強い興味を感じられました。

勾玉作り体験では、どうやって削れば丸く滑らかな形の勾玉になるのか、考えながらの作業を通して、古代の人々の知恵や技術に対して気づきがあり、思い出に残る体験になったのではないのでしょうか。

一方、先生からご指摘のあった勾玉の説明での漢字の振り仮名など、生徒にわかりやすい資料作り、磨き工程の時間調整は、今後の課題として改善していきたいと思います。